

# ふるたん Gifu

～親子でふるさと博士に～

ぎふ探求ネットワーク事業

和傘づくりの大ベテラン

伴 晴吉さんに ちよくげき 直撃インタビュー

## 今、おいくつですか？

大正5年、1916年生まれで、今年、87歳になります。  
(岐阜市加納在住)



## かさ作りを始めた理由は？

家内工業として家族全員でかさ作りを行っていたため、家族の一員として仕事を手伝ううちに、自然に作業の一つの工程を担うようになっていきました。そのとき父から、「機械が一台ふえた。」と言われました。そのころは、子どもも大事な働き手だったんです。



## 一人前になるのに、どのくらいかかりましたか？

5年くらいかかると思います。(と、謙そんして言われたが、昔の無報酬【給料ももらえずこづかい程度もらえる】の小僧時代のような修行をしてということ)



## かさ作りの魅力は何ですか？

現在、様々な大きさの傘を作れるのは、自分ひとりであり、大きさに応じて作り方を変えて作ることができることかな。それに、今は「総合的な学習の時間」で、市内の4つの学校や羽島市内の学校の子供たちが見学に来たり、話を聞きに来たりして子どもたちの顔を見ることができるとかな。

## 子どものころ、楽しかったことはどんなことでしたか？

つなぎ(かさの骨になる竹をつなぐ作業)は、100本仕上げると、1円50銭になりました。それを近所の遊び仲間に教え、仲間と協同行うことによって、一月で30円(今の一月分の給料ぐらい)ほど稼いだんだよ。当時小学生で、一月30円稼ぐ自分は、仲間の子どもから「清吉おやぶん」と呼ばれ、しかも、大人顔負けの、その作業のていねいさを傘屋の間屋の人からほめられたときが一番うれしかったよ。だから問屋からどんどん仕事の依頼が来たんだ。だから、遊ぶ前につなぎの仕事を済ませてから遊んだんだよ。

## 子どものころ、どんな遊びもしていましたか？

かさを干す干し場(当時は600本ほど干すことが可能)で、2反(2000㎡ほど)で、三角ベースなどで遊びました。でもバットは無いから、竹をバット代わりにして遊んだんだよ。

## ぎふっ子たちへのメッセージは？

どんなことでもよい。ひとつでいいので、途中で棒を折らないで、最後までやり遂げてほしい。とにかく、なんでもやる気が大切だよ。やる気さえあれば、それまではできないこともできるようになるよ。

70年間、和傘作りをしてみえ、誇りと自信にあふれる伴さんの口調に、とても説得力を感じたインタビューでした。

